

## 平成29年度 第3回宗像市総合教育会議議事録

**【日 時】** 平成30年2月1日（木）午前10時から午前11時38分

**【場 所】** 宗像市役所 本館3階 304会議室

**【出席者】** 宗像市長 谷井博美  
教育委員 宮司葉子  
教育委員 白石喜久美  
教育委員 石丸哲史  
教育委員 釜瀬計  
教育長 遠矢修

**【その他の出席者】** 教育子ども部長瀧口健治、都市戦略室長河野克也、市民協働環境部文化スポーツ担当部長兼文化スポーツ課長磯部輝美、教育子ども部主幹指導主事阿部龍彦、教育政策課長の野仁視、教育政策課指導主事守浩一郎、教育政策課指導主事佐々木真理子、教育政策課指導主事毛利拓也、学校管理課長山倉昌俊、子ども育成課長村上治彦、子ども育成課社会教育主事薄伸也、子ども育成課社会教育主事河野和道、図書課長織戸由美子、子ども家庭課長中村修、発達支援センター所長八木直行、文化スポーツ課参事古沢昭一、教育政策課政策係企画主査吉田宏枝

※傍聴 なし

### 1 開会

**【谷井市長】** 平成29年度第3回総合教育会議を開催いたします。

**【教育政策課長】** 本日はお手元の次第にありますように宗像市学校教育アクションプラン2018（案）について、それから大島学園設置に向けた協議・進捗状況について、そして宗像市立学校における休業日の短縮について、この3つのテーマにつきましてご協議をお願いしたいと思います。各テーマでは担当がまず説明を申し上げた後に質疑応答、それから協議を行って頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。それでは早速協議事項に入ります。1つ目の協議事項、宗像市学校教育アクションプラン2018（案）につきまして、まず、阿部主幹指導主事から説明があります。

### 2 協議事項

**（1）宗像市学校教育アクションプラン2018（案）について**

【阿部主幹指導主事】 私の方から来年度2018のアクションプランについて説明をさせていただきますけれど、その前に今年度のアクションプラン2017の総括を行った上で、2018の案を示させていただきたいと思います。お手元の資料、資料1としてA3で3枚あると思いますが、1枚目が本年度のアクションプラン2017です。2枚目がこの2017の総括をするにあたって、各学校に各項目ごとの自己評価をして頂いております。その集計表が②でございます。そして3枚目が来年度の2018のアクションプランでございます。プレゼンを使いながら説明させていただきますので、お手元の資料もありますが、前のプレゼンを中心にしながら説明を聞いていただけたらと思います。このアクションプランにつきましては縦3列でございますけれど、左側は宗像市教育委員会が主体となってする研修、右側は宗像市が行う事業でございます。それを挟むように真ん中に掲げているのが、各学校で行っていただきたい教育活動という形です。今日は真ん中の部分を中心に総括をさせて頂きたいというふうに思っております。1項目ごとに説明をさせていただきます。はじめに、確かな学力を育む教育活動ということでございます。この項目につきましては成果指標としまして、全国学力調査が、全国の平均正答率に対してプラス5ポイント上回るというのが宗像市の指標でございます。もう既に夏過ぎに説明させて頂きましたけれど、本年度は中学校の数学Aという教科に対しまして全国平均に届かず、マイナス1ポイントという結果が出ました。それ以外につきましてはほぼ全国平均並みかそれ以上ということで、これは各年度ごとの経年変化でございますけど、小学校におきましては5ポイントというのはなかなか高い目標ではございますが、大体3ポイント前後ずっと平行する形で、安定した形で全国平均を上回る結果が出ております。中学校におきましては年度ごとに多少ばらつきはありますが、ほぼ全国並み、或いは全国以上ということで、ただ今回は昨年度に比べて数学の方が全国平均を下回るという結果が出ましたので、このことについては、再度学校の方できちんと研修をしていただいて来年度に向けて授業改善をして頂きたいと思っております。学校間格差というのをいつも我々は気にしております、このグラフが一番上が離島を除く管内の小中学校の一番平均点が良かったところ、全国平均よりも何ポイント上だったかということなんです。下の四角の部分がいわゆる管内の小中学校の平均正答率が全国と比べて低かったところで、真ん中の三角が宗像市の平均になっております。昨年度まで、市内の小中学校におきましてはだんだん学校間格差が無くなってきた、ということですのでごく評価をしておりました。今年度は、ご覧のように少し学校間の格差がまた広がったという結果が出ております。ただ実は中身が今までと違いまして、今まではどちらかというと地域性、ここの地域はなかなか家庭学習が十分できてなくて難しいからいつも平均正答率が低いとかいうそういう地域性があったんですけど、今回はその地域性は全くございません。逆に学校の中がどれだけ組織的にこの事業改善に取り組んだかというのが、まさにそれが結果として成果に出ているということでございます。だから学校のすべての職員が学力を上げようという方向でベクトルを1つにして、1つの方向で取り組んだ学校については非常に高い成果を上げているというのが、今回そういう部分

での格差が広がったということなので、この分についてはしっかりと来年度指導していきたいと思っております。あと一つ一つの項目につきましては、課題として挙げられるのが、各学校の、左側が小学校の平均、右側が中学校、これが全体ということで、4点満点で評価をして頂いてというところですけど、特に黄色で書いてあるところが課題があったところでございます。主体的対話的で深い学びを実現する指導力の育成、いわゆる来年度から始まります新学習指導要領の授業のイメージです。こういう授業を作っていきましょうということの1つのキーワードとなっている言葉、昔でいうアクティブラーニングと言われていたところですけど、これがまだまだしっかりと、こういう授業をする先生方の指導力がまだ育成されていないというのが小中学校すべてに共通した課題でございました。確かに移行措置期間が来年度から始まりますけど、これからしっかりと伝達講習もありますので、それも含めて先生方に周知をしていかないといけないところですけど、面白いのは、実は5番と6番という項目がありまして、5番というのは主体的な学びを説明した項目なんです。6番というのは対話的な学びを説明した項目。この2つの項目が1つの設問として問うたのですけれど、ほぼおおむね満足という結果が出ている。どういうことかと申しますと、確かに学校訪問をされて委員さんもお気づきになったかと思えますけど、非常に学校はですね、こういう文言に対応してグループを作ったりとかペアで組んだりとかいう、いわゆるそういう形態としての、授業形態は非常に目立つようになってきました。だから子ども達と一緒に話し合ったり活動したりする場面というのは、非常に小中学校増えてきたのは事実でございます。ただこれが形だけになって、実際ここで大事な深い学びに結びついているかということです。こういうところがまだまだ課題だということでございますので、しっかりといわゆる授業の形ではなくて、それが本当に学習の質として高まりがあるかというところを、来年度はしっかりと研修等々して、先生達に力をつけて頂きたいと思っております。続きまして、豊かな心を育む教育活動という項目でございます。これにつきましては、成果指標は全国学力調査の質問紙で、自尊感情の項目が全国平均以上というのを宗像市は目指しております。昨年度も申し上げましたけども、宗像市はいつもいつも大きな課題と言われているところがございますけど、昨年度は小学校がほぼ全国、これが全国平均です、全国平均並みに近づいたんですけど、今年度は小学校6年生、中学校3年生ですけど、全国の平均には届かず、中学校は特に相変わらず低い自尊感情のポイントというところになっているところです。いろんな体験活動を位置付けた教育活動等はやってはきているんですけど、なかなかまだ改善ができていないというのが現状でございます。もう一つは、生徒指導上の諸問題につきましては、これにつきましては、今12月現在の状況でございます。左側に平成28年度のいじめ、それから不登校の児童生徒数、ほぼおおむね昨年度並みという形でいっている状況でございます。若干小学校の方が少し昨年度を超える形で課題が多いかなと見受けられるんですけど、全国的に見ますと、例えばいじめにつきましては、千人当たりのいじめ認知件数というのを統計で出すんですけど、千人当たり全国の小中学校を合わせると、中学校におきましては



成果指標は全国の体力調査が全国の平均以上ということでございます。教育委員会等ではお示しをさせて頂きましたけれど、まだ正式な全国の結果が2月になるということで、成果指標につきましてはもう少し時間を有したいところでございますけど、本年度は各学校すべてのデータを県のアクシオンの方に送付しまして、各学年ごとの細かいデータを集計したものを各学校に配っております。個票も配っております。したがってかなり詳しいデータが出ております。福岡県自体は非常に体力が向上している状況でございます。あわせて宗像市も課題はあるのですが、体力向上は徐々にですけど、子ども達の体力はついている状況でございますので、今年から細かいデータが出てきますので、これにつきまして各学校ごとの取組を充実させていきたいというふうに思っております。続きまして、学校経営の充実というところでございます。これにつきましては一つの成果は学校運営評議委員会、いわゆる小中一貫教育の中で、校区ごとに家庭の方々と一緒に話し合う場、学校運営評議委員会を学期ごとに位置付けておりますけど、これが非常に充実をしてきたということでございます。今までの学校運営評議委員会は学校が主体となって地域家庭に説明をするといういわゆる関係者評価的な、説明をして意見をもらうという一方通行の関係だったのが、一緒にそれぞれの役割の中で話し合っただけで何ができるかを考えていこうという、いわゆる熟議の形をしっかりと取ってください、ということで今年は力を入れてきましたので、多くの学校はこういう形でグループを作りながら、地域の方、それから保護者の方々と、一緒に学校の今の教育活動の成果と課題等を話し合いながら、地域でこんなことをやりましょう、家庭でこんなことをやりましょうと、それぞれの立場で意見が言えるようになったことが非常に大きな成果と思っております。国は今、コミュニティスクールを進めております。近々、全国のすべての小中学校はコミュニティスクールにしないという流れが示されるのではないかとされております。そういう意味では、うちでは小中一貫をアプローチとしながら地域と連携という形でやっております。福津市はコミュニティスクールを中心としながらも、今は小中の連携という形、目指すところは一緒なんですけど、そういう意味ではコミュニティスクールというものに対しての準備対応も考えていけないといけないというふうに考えているところです。課題はですね、やはり次期学習指導要領に向けた周知がまだまだ不十分だということでございます。先程も学力のところでお示しましたけれど、やはり主体的対話的で深い学び等を含めてですね、新しい学習指導要領の理念等をもう一度先生方にしっかりと周知をしていかないと、ごく一部の学校管理職、それから学年主任、いわゆる中堅リーダーまでで、それぞれの教室までしっかりとこの理念がいきわたるような、そういうふうなことを先生方に認識してもらわなければいけないと思っております。最後に小中一貫教育の基本方針に基づく教育活動、いわゆる基盤となるところでございます。これにつきましては、宗像市は自立と関わりという言葉、キーワードで、学力の部分ではプラス5ポイント、そして関わりという部分で、学校生活が楽しい、充実している、これが90パーセント以上を指標として目指しております。2学期末に取った集計が出来上がりましたので、ご報告させていただきます。

けれど、平成29年度の1年生から3年生までこういう状況になっております。過去の経緯を見ますと、大体6年生から中3、いわゆる後期に関しましては、非常に学校生活が楽しい、充実しているということで90パーセントを超えているところが多くてですね、過去の課題は、いわゆる前期の後半、3、4年生がなかなか90パーセントに届きませんということだったんですけど、今年度は如実にそれが表れたといたしますか、特に3年生4年生については83パーセントという形で、90パーセントに届かない、今までの中で最低の数値が出ました。これを90パーセントは高いとみるか低いとみるかいろいろご意見はあるんですけど、やはり90というのは、10人に1人は学校が楽しいとは言えない、と言っているわけですから、やっぱり90パーセントを目指して、しっかりと特に前期の部分のゴール、4年生までにしっかりと学校生活を充実させる取り組みをしていかないと考えているところがございます。以上が2017の総括でございます。以上の総括を基にしながら、来年度ですけど、2017の成果と課題を受けまして、それから新学習指導要領の移行、それから特別の教科道徳が小学校で完全実施されるということ、国の動きとしてコミュニティスクールが推進されようとしている、そして、国全体の動きですけど、教職員等含めて働き方改革の推進、これらを視野に入れながら2018のプランを作っております。簡単に説明させていただきます。まず、アクションプラン2018、3枚目ですが、確かな学力を育む教育の充実につきましては、昨年度と同様にこの主体的対話的で深い学び、特にこの深い学びを実現できるような先生方をしっかりと育てていきたいというふうに思っております。形だけの授業ではなく、学習の質を上げていくというところがございます。そういう意味で、いろいろな研修会を昨年度に引き続き設定しております。特に学習指導要領の中では、小学校の外国語が新しく入ってきますので、小学校における外国語教育については、充実させていきたいということで、新たに外国語教育の実践研修会を、今までは担当者研修会と呼んでいましたけれども、これからは小学校の先生方すべてに力をつけていただかなければいけませんので、全ての先生方ができるだけ参加をしやすいように外国語教育の実践研修会という形で、新しい研修会を設けていきます。それから、学びの質を上げていくというところで、研究主任の力をしっかりとつけていただくというところで、研究主任の研修会の回数を増やしているところがございます。それから、ALTの配置につきましては、小学校と中学校に配置しておりますが、来年度からの2年間、移行措置の期間は若干小学校の時数を重点的に配置していこうという形です。中学校に今まであった分も少し小学校に移して、小学校に配置時数を増やしていこうというふうにして考えているところがございます。続きまして、豊かな心を育む教育活動につきましては、やはり先程の課題と出ました道徳の問題、それから特別活動の問題、これについては引き続き昨年度同様に力を入れていきたいと思っております。特に小学校では、新しい教科書を使った道徳科としての教科が始まりますので、しっかりとそういう部分では昨年度に引き続き道徳教育推進教師を中心とした研修会を充実させながら、学校の中で先生方に力をつけて頂きたいと思っておりますし、特に中学校の課題であります話し合い

活動の学級会活動につきましては学校の日にしっかりと設定をしていただいて、それを公表するという事で先生方に意識を持っていただきたいと思っております。それから、来年度の目玉であります地域学習の世界遺産学習でございます。いよいよカリキュラムが出来上がりました。今、製本して、来年度すべての先生方にカリキュラムの副読本それから、指導案等が配布されるということになりますので、これをすべての小中学校で、確実に実践していただくということです。これは、来年度の一番重点的なところになってくると思えますし、併せて来年度は11月17日に世界遺産学習の全国サミットがあります。さまざまな子どもたちを全国から集めて、発表の場を設けますので、ぜひ宗像の子ども達にも、全員とまではいきませんが、参加してもらって、他の県の世界遺産学習の様子も知っていただきたいと思っております。続きまして、健やかな体につきましては、オリンピック・パラリンピック教育という言葉をごここに挿入しております。これ自体が、体力向上に直結するような教育ではありません。幅広い教育でございます。オリンピック・パラリンピックそのものについて学ぶ学習であったり、オリンピック・パラリンピックを通じてスポーツの価値や地域文化や共生社会などを学ぶのがオリンピック・パラリンピック教育でございますので、とても幅広いものではありませんが、これも視点に入れながら各学校で教育活動を作っていただけたらと思ひまして、一人でも多くスポーツに興味を持って、スポーツに関心を持てるような子ども達をつくって、体力向上につなげていきたいと思っております。それから、特別支援教育につきましてはICTの活用ということで、3校にタブレットを配置しながら、このタブレット配置につきましては、一気にできませんので、徐々に特別支援学級だけではなくて、普通教室の中でも、いろいろな形で幅広く使っていただきたいと思っております。それから最後に、学校経営の充実につきましては、まずしっかりともう一度、新しい学習指導要領の理念、それから方法等をしっかりと先生方に周知をしていきたいというふうに考えております。事務局も実は、来年度から本格的な伝達講習という形になりますので、こういう場をしっかりと充実させていきたいと思ひますし、併せて学校の組織マネジメントによる、組織力の向上ということで、今からは個人個人ではなくチームとして学校が動いていかなければならない時代ですので、チームとしての学校づくりの推進ということで、これを最終的には先生方の働き方改革につなげていきたいと考えております。学校運営評議委員会につきましては、これからどんどん充実をさせていきたいので、できるだけ回数を増やしていきたいという学校の意向もございましたので、今まで3回やっていたのを、一応合計5回ということで予算組みをしまして、充実をさせて地域家庭との連携を深めていきたいというふうに思っているところです。この後の話になりますけれども、義務教育学校が来年度からスタートします。小中一貫教育のさらなる発展ということで、この新たな学校種の義務教育学校が大島学園ということでスタートします。また、今日は学校長にも来ていただいて、どのような学校を作りたいかという話にも少し触れていただきたいと思ひます。ここの部分の教育も充実させていきたいというところでございます。以上でございます。

【谷井市長】 ありがとうございます。今年度の事業の報告と課題、そういったものを来年度のアクションプランに反映すると、皆様方には両方合わせまして、関係・関連がありますので、ご質問等ございましたらお願いします。

【宮司委員】 質問ですけれども、まず1点です。特別支学級におけるICTの3校タブレット配置のその3校はどこかということをお教えしてもらいたいのと、全国学力調査の学級会などの時間にと書いてある、異なる意見や少数意見のというところの小学校のところは平成28年から上がってきていることから、平成27年までは少し低かったのですけれども、そこが急にポンと上がって、そこから平均よりも3ポイントくらいずっと上がっているのはきっかけか何かがあったのかというのを、もしわかれば教えてもらいたいです。

【谷井市長】 どなたか、はい、どうぞ。

【佐々木指導主事】 失礼いたします。ICTのことではなく、学力のことについて説明させていただきます。あの27年度から数値が上がったことに関しては、学校の日々学級活動(1)の方から必ずということを知り、特に学級会(1)のいわゆるみんなで話し合い活動をしましょうということを中心に伝えてくださいということをお願ひしたことも一つのきっかけではあると思います。特に、アクションプランを立てる上での主幹の反省にもあったように、常々、校長研修会、教頭研修会で伝えてきておりますので、組織的に学級会でとにかく子どもたちのこういった資質能力を上げようという取り組みが、徐々に上がってきているところからあるのではないかと考えます。以上2点です。

【守指導主事】 はい、特別支援学級のICTについてお答えいたします。3校ですけれども、この3校についてはまだ調査をしてどこにするかは内部で検討しているのですけれども、それと学校に10台ずつ配置する中で、特別支援学級だけでなく、幅広く使ってもらえるように周知していきたいと考えております。

【宮司委員】 ありがとうございます。

【阿部主幹指導主事】 昨年度から校長会、教頭会等も含めて、話し合い活動を学級会でしっかり力を入れていきますよということで、共通認識のもとしっかり取り組んできましたので、それが小学校は表れたと、中学校はきちんとやれるようになったのですけれども、まだ子ども達レベルでは、まだ自分たちでしっかりと話し合っている意識にはなっていないということで、学級会が中学校では全く行われていないというわけではございません。課題もたくさんありますけれども。

【宮司委員】 上がったらいいですね。がんばっているのです。

【谷井市長】 これはアクションプランの中で具体的にまた、あれしてもらいたいですね。ICTは、私の方でこれは機材等につきましては充実させたいという考えをもちしております。そのためには、やはり費用対効果がどうしても求められるわけですね。非常に多額になりますので。ですから、学力テスト等を一つの基準として、目安として、この辺りが即ICTと関係あるかということにはならないと思っておりますけれども、やはりICTを入れた

ことが、他自治体でもまだ進んでいないわけではありますけれども、何らかの費用対効果をどういう形で評価してもらいたい。はっきり言うと、それが全部つながるというわけではないですけれども、私たちとしましては議会等で説明する中で、そのような評価が、あるいはそれが学力に結び付かない場合については、どこに問題があるのか、どういう指導力、あるいは機材、機材の提供等そういったものについては、一緒になって考えていきたい。基本としては充実させるということですから。当然、そういったことで学校が好きになると、先程ありましたように3年生、4年生が非常に低かったのですけれども、楽しいICTを含めて、学力を上げるためにICTを利用しているわけではないので、総合的に頑張ってもらえればと思っております。他に何かありますか。

【釜瀬委員】 質問でいいですか。全国学力調査の学校間格差の件で、離島を除いた中で平均をされているのですが、離島のある程度傾向や状況とか、大島と地島とか離島の傾向、良さを、学力は点数しか出てこないの、今度大島が義務教育学校になるので、大島の特徴や義務教育学校になったときの变化、大島の学力調査の傾向をもし把握しているのであれば、載せなくていいので、口頭でこういう状況だということ进行分析されているのであれば、教えてほしいというのが一点です。もう一つが、宗像は自尊感情が低いですね。慎重深いのか遠慮がちなのか、日本の文化と一緒に控えめで、宗像の人は前に出て自分がという人は少ないのかですね。学校全体が悪いわけではない、素晴らしいと思うし、生徒もいいと思うのですけれども、数値に出すと低いことに驚きます。もっと自己アピールや積極性や自己主張をする場面をいろいろ作ってあると思うのですが、自尊感情がこんなに低いというのは、原因や背景があるのか、もしそのような傾向を分析されているのであれば教えて頂きたいです。その2点です。

【阿部主幹指導主事】 まず、大島を含めた離島の学力については、いわゆる平均ポイントでは人数が少ないので、個別の対応で見ていくしかないですね。つまり、どういうことかという、ほぼ良ければ平均以上の点を取るし、少し悪い子がいれば、こんなに下がるのというほど下がってきます。その差が激しいので、当然個別のカルテを作りながら、一人一人をみていくという形でやっていきます。ただ当然、人数が少ないなりに、授業は充実させていかないといけないので、少人数だから浮き沈みが激しいというわけにはいきませんので、常にトップを目指してもらいたいというふうに思っておりますので、あとで校長先生の話の中で伺いたいと思います。

【谷井市長】 2点目ですね。

【阿部主幹指導主事】 はい、自尊感情はずっと宗像は、要はもっともついろいろな人達から褒めてもらったり、認められるということですね。やったことを認められる経験が少ないのか、そういうふうに我々は少し感じています。そういう意味では、どんどん今から地域に出て、地域のおじさんたちに怒られて、怒られるのはいいと思うのです。怒られても、最後までよく頑張って最後までやり遂げたねとか、やり遂げるとかそういう経験をもっと少しさせていかないといけないのではないかとよく話はしているところでございます。

【谷 井 市 長】 それに付随してですけれども、今のに関してですけれども、2つありまして1つは、大島・地島、特に大島です。これは後で、大島のところで出そうと思ったのですけれども、学力の問題が今出ましたので、これはモデル校として義務教育学校となったので、これは成果として、人数は少ないといえども、やはり大島が義務教育学校になったということを1つのモデルに、学力を含めてですね、そこが成果を出すということが、次に出てくる義務教育学校につながる、あるいは、極端に言えば、よそからも大島に来て学ぶとか、そのようなことになれば、なお良いわけです。ですから、この話はまた後でその辺りの意見を聞かせてもらいたいですね。それともう一つは、子どもたちの自尊心の問題ですけれども、市長部局として困るのは、今グローバル化・国際化ということで、事業を進めています。そのために、特別に例えばALTもそうなのですが、そういった子どもたちが大々的に物事を発信していくと、物怖じすることなく、相手のことを理解しながら発信していくと、そういうことに自尊心はつながってくると思います。その成果が低いということは、先程も言いましたが、ALT だけではないですけれども、グローバル化・国際化の事業といったものとの関連で、どこまでその効果があるのかということに、つながってくると思います。これは、市長部局としての考えなのですけれども。そういうことについては、今後、来年度のプログラムの中で検証してまいりたいと思います。他に何かありますか。石丸先生、専門家の目で何かありますか。

【石 丸 委 員】 学力のことで少しお伺いしたいのですが、数学に関して、本来一般的なパターンとしては、A問題が高くて、B問題が低いのですが、今回、B問題が高くて、A問題が低くなっています。これが中学校の数学となると、どういった場面が想定できるのでしょうか。実は重要なのは平均値で出てくる結果にとどめるだけでなく、原因究明することがやはり一番重要なポイントだと思います。市で集計した結果、どうしてこのようにAでポイントが低くなったのか。よくあるのは、A問題でちゃんと分かっても活用できないから、Bが低いというストーリーが出てきますが、これはどういうふうに解釈したらいいのでしょうか。

【阿部主幹指導主事】 これは一つの全国平均に比べたポイントの差を示しておりますので、確かに今回はポイントが低かったです。今ははっきり言って、学力的にはどこの市町村も、どこの学校も、しっかりとこの結果を基にしながら、何が原因かを分析しながら、授業改善に活かしていますので、はっきり言って追いつけ追い越せの状態ですので、基本的に、全国的に少し低かったわけですけれども、宗像がやっていないというわけではありません。力が段々ついているというふうに感じています。今回、若干数学は全国的にも低かったわけですけれども、先程も言いましたように、今回、学校間の差が結構ありました。つまり、どういうことかと言うと、やはり管理をしているところは全国平均並みの点数を取りますけれども、そこが十分ではなかったところは、所謂これは県の平均ですから、足を引っ張る、ぐっと下がってしまったということでございます。そういうところで、見て頂きたい。

【石 丸 委 員】 学校間格差が、結局平均したときに表れているわけですね。もう一

つの自尊心についてですが、前も申し上げましたが、釜瀬委員もおっしゃったように、都会の人間はやはり、非常に、俺はできるんだというような雰囲気がありますが、それに対して、田舎の人間は、「自分にいいところはあると思いますか」と問われたら、控えめになってしまう。だから、問い方も問題があると思うのです。自尊心を高めるためには、できたとか、やれたとかという、そういう場の提供ができるだけ多くあるに越したことはないと思うのです。いろいろな機会を見つけて、できた褒めてあげられる。真面目な姿をほめるというよりも、真剣な姿、できた姿を褒めてあげることになると、ぐんと伸びるのではないかと思います。そういう意味で場の提供、今あるいろいろな取り組みや授業の中で、そのような場はないかどうかを見出していただいて、それを積極的に効果的に活用していただければと思っております。

【谷井市長】 ありがとうございます。今、要望的な話だったと思いますけれども、その辺何かありますか。

【阿部主幹指導主事】 いろいろな方法はあると思いますけれども、話をしているのは、今は型にはまった道筋の決まった学習です。子どもたちが壁にぶつかってどうしようかと一緒に悩んで、それを乗り越えるよりも、できるのを前提に、ある意味お膳立てをし過ぎのような学習もたくさんありますので、やはり自分たちで壁にぶち当たって、考えよう一緒という場面を学習の中に取り入れて、それを乗り越えて、できたとか分かったとか、認められたとか、実感のある経験をさせていきたいなと思っております。

【谷井市長】 先程も、子どもたちのボランティアの話がありましたけれども、これも伸びているのはすごくいいことだと私は思います。特にコミュニティが充実する中で、子どもが社会教育の中で、人との交わりの中で、自分の考えを持っていく、協調性を持っていくことが、そういうことが自信につながる。先程からくどういようですが、そういう子どもをグローバル化というよりも、どこに行っても物怖じしない、交わっていける子どもを育てたいと市長部局だけではないと思いますが、そう思います。特に、アクションプランの中にも入っていますが、強くお願いしたいと思います。他に何か、白石先生お願いします。

【白石委員】 説明を受けた中でも、各教育委員のお話を伺った上でも、一番には教育、その中でも自尊心となっているように思われます。提供してあるものは素晴らしい。これ以上のものはどこにあるのだろうと思うくらいの教育学習プランの仕上がりを見ていると思います。その中で、自尊心を考えると、子どもたちの目標を、「楽しい・うれしい・活動的である」とどまらず、自分個人の目標をもたせることが大切なのではないかと思います。その目標がレベルの高いものの方がいいのか、それとも、これくらいのレベルであればできるのではないかという内容にするのかは、先生と子ども交わりを持ち、話し合う中で、育っていく部分ではないかと思っておりますので、そこが大事だと思います。それから、交流の場については、小学校内では、先程の説明でいろいろな場面で格差が出てきているということは痛切に感じます。学校の日など、いろいろと訪問させてもらうことで、

説明を聞きながら、このことかと思うこともあります。感動することの方が多いのですけれども、それで交流する場面をもう少し幅広く、例えば宗像市内の小中学校の交流でもいいし、また、話によく出てくる松本市との交流など、他県に行くことや、身近なところで、福津市との小中学校の交流の中で、少し冷たい言葉のようだけれども、あなただったら何ができるのと問いかけることなどが、グローバル化していく場の提供ではないかと思えます。今年は、幸い世界遺産学習全国サミット in 宗像も開催されますから、世界遺産の教育カリキュラムの中にも、そういうものが入ってくることで、子どもたちは自信をもてることが溢れ出てるわけですから、そういうことを利用しながらできることがあるのではないかと感じました。何よりもうれしいのは、いじめが少ないことが良いことです。これだけは、子どもたちの成長を守る上で、とても大事なことだと思うので、今後も先生達にしっかりご指導していただきたいと思えます。

【谷 井 市 長】 はい、ありがとうございます。これは福津市とは一緒に教育力の向上推進会議をやっているのですね。

【阿部主幹指導主事】 はい、やっております。どちらかと言いますと、先生方の人材育成を視点を話しております。

【谷 井 市 長】 それに学校研究協議会ですか、こういったものをやっていると、福津との先生の交流というか、移動もありますので、同じくらいのレベルで先生方力を入れて、工夫してもらえたらと思っています。この辺は、経済的なラインというか自主的なラインでやって、それを具現化してもらいたいと思えます。時間が、定時になりましたが教育長、まとめはありますか。

【遠 矢 教 育 長】 自尊感情の話は、主幹の方からも話がありましたけれども、学校教育の中で、先生がいろいろなことを考えながら活動していく上で、やはりルールを引いた中で子ども達を走らせているような傾向が見られるように感じますので、これは次期の学習指導要領の中でもあるように、主体的に子どもたちが自ら課題を見つけて学んでいくという授業スタイルも新しく変わってくるので、その中で子どもそれぞれに目標を与えて、その中で自分がどうやっていけば人とかかわりの中で成長していけるかという授業スタイルを、今話し合い活動をずっとやっていますが、あとは質ですね。本当にただ単に時間を与えてその中で話し合うだけではなく、主体的に子どもが課題を見つけながら学んでいけるような授業スタイルを、また次期の学習指導要領の中でも大きな目玉ですので、それは学校教育の中でしっかりやっていく必要があると思えます。それから、学校外の社会教育関係は、先日も1月29日に「わくわく教育フェスタ」で各団体が11ぐらいのいろいろな取り組みをしている発表がありました。それについても、子どもが自ら司会しながら主体的にやっていく活動に取り組んでいますので、その辺についてはさらに充実させていく必要があります。ただ、社会教育関係の事業をみていますと、宗像は県内でもトップクラスぐらいのいろいろな取り組みをしていますし、事業も展開を図っていますし、その中で子どもたちはいろいろな意見を言いながらやっています。それから、ボランティアの話

も出ましたけれど、特に小学校の段階ではいろいろな地域の方に守られながら、育てられている印象があるのですけれども、中学生になりますと自分の考えもしっかり出てくるようになりますので、地域貢献・ボランティアということで、これは校長会の中でも私の方から、中学生になったらいろいろな活動ができるんだからとお願いしております、この取り組みもどんどん上がっておりますので、これについても今後とも充実させていくことで、自分たちがやったことに対する自信を深めていければ、結果、自尊感情の問題も上がっていくのではないかと考えております。以上です。

【谷井市長】 ありがとうございます。最後に、中学生のボランティア・地域活動での中学生の姿があまり見えないことが問題です。低学年はいいんですけれども、中学生になると、もう大人ということもありますでしょうけれども、この辺は私も市長部局の方でもコミュニティの指導、学校側も中学生のボランティア等についての参加をよろしくお願ひしたいです。特に、世界遺産学習、これも一つの切り口になると思うので、学習の中で交流を持ってもらうことが大事だと思います。また、他に何か特別ありましたら、教育委員会の中で議論していただきたいと思います。

## **(2) 大島学園（義務教育学校）設置に向けた協議・進捗状況について**

【教育政策課長】 まず説明を、守指導主事の方から報告をお願いします。

【守指導主事】 失礼します。資料2をご覧ください。宗像市立義務教育学校設置等に関する基本方針では、設置に向けた留意事項としまして、地域・保護者に対して設置に向けた説明や協議の場を設定すること、また学校は義務教育学校設置検討委員会を設置し、地域や保護者の意見を聞きながら、協議・決定をするというような方針が出されております。それに基づきまして、こちらに大まかなスケジュールがありますけれども、10月から地域保護者への説明会を10月また12月に行っております。また、学校では大島学園義務教育学校設置検討委員会としまして、11月6日にまず全体会を行いまして、そちらに公的部会、PTA部会、カリキュラム部会、事務局部会、生徒指導部会の5つの部会の方を設置しまして、それぞれ部会の方で設置に向けた検討の方を行っております。設置検討委員会の全体報告は1月下旬となっておりますが、これは2月に一応予定をしております。また、保護者への説明会3ということで、方向性につきましても、2月の方で調整を行っております。それを基に4月に義務教育学校、宗像市立大島学園の開校を目指している、これが大まかなスケジュールになります。次をご覧ください。こちらは、先程申しました義務教育学校設置検討委員会で、上から公的部会、カリキュラム部会と5つの部会がありまして、それぞれで協議をしていく内容を示しているものです。太線で示しているところは、すでに決定しているもので、学校名こちらにつきましては、義務教育学校宗像市立大島学園と決定しております。また、PTAの組織につきましても、小学校、中学校のPTA組織を一つにまとめているということが決定していることとございます。また、公的部会

につきましてはそこにありますように、校章、校旗から開校式など様々な協議の方を進めております。その中で、次のページをご覧ください。カラーになりますけれども、義務教育学校宗像市立大島学園における儀式的行事、入学式や卒業式などに関する式典スケジュールが1月18日の公的部会での協議を基にこのように決まりましたので報告させていただきます。まず、平成30年、今度の3月までは宗像市立の大島小学校、中学校がありますので、それぞれ中学校、小学校は、市内の小中学校と同じように卒業式を行います。そして、終業式は3月23日に行いますが、この時に閉校式を兼ねるということで話し、この中では式典としてはしない方向でしております。そして4月になりまして、4月6日こちら始業式の日になっているんですけども、この日に義務教育学校宗像市立大島学園の開校式を式典として実施するようにしております。中身につきましては、今検討しているところでございますが、この日に行いたいと考えております。また、入学式・卒業式に関してなのですが、本来義務教育学校は、一つの学校でありますので、入学式は小学1年生、卒業式は中3に当たる9年生の入学式・卒業式しかないということになるんですけども、先程申しましたように、今度の3月は大島小学校6年生が卒業するということがありますので、この平成30年度に限りましては、所謂子どもたちが中学、平成30年度から後期課程というふうに言うんですけども、そちらに入学する方法を実施するようにしております。なおこの時には、平成30年度に限って、前期課程、後期課程の入学式を市内の小中学校の時と同じように、後期課程を4月10日、前期課程を4月11日というふうに実施するようにしております。そしてその次の年、平成31年3月ですけども、こちらは、中学校の卒業式と同じ日に大島学園としての第1回の卒業式を行うようにしております。そして修了式の日には、これまでの6年生の卒業式に代わるものとしまして、修了証書授与式を学校行事として実施するというので、前期課程修了証書授与式を行い、そこで6年生の保護者を招いて実施する方向にしております。その次の年からは、大島学園の始業式は後期課程の進級式と兼ねて行い、また、小学校入学式の日は大島学園の第2回入学式を行う、このようなスケジュールを去る1月18日の公的部会で方向を決めましたので、報告をさせていただきます。また、次年度以降の学校をどのように作っていくかということにつきましては、今日は大島中学校の竹原校長先生においでいただいておりますので、竹原校長先生に説明していただきたいと思っております。

【竹原校長】 すみません、大島中学校校長の竹原でございます。まず、このような場を与えていただきました方々に対してお礼を申し上げたいと思っております。ありがとうございます。まずもって、今回の義務教育学校設置に当たって、数回の説明会を行ってきまされたけれども、私は、大島中学校に赴任しましてまだ2年しか経っていませんが、2年も経ったというふうな判断もできると思うのですけれども、島の方々、保護者、地域の方々の気持ちをよく理解できずに、この義務教育学校の設置が説明が十分に理解して頂けずに、私が手回しをしておけば、市長と教育長にご心配をかけることもなかったと思うのですが、まずはそのことについてお詫び申し上げます。しかしながら、数回の説明会をしていくに

あったって、島には何人かの反対をする方がいらっしやいまして、その方々のご自宅を島に泊まりまして、夜に回って説明を丁寧にして参りました。そうしましたら、義務教育学校の設置については反対ではないと、「説明が遅かろうが」というお叱りを受けて、申し訳ありませんというふうなことを言いまして、市教委の方からも全大会の中で、そのことを言っただきまして、少しずつ島の方々の理解を得ているところでございます。今度、守指導主事の説明の中にもありましたが、2月13日に保護者説明会を夜、予定をしているところでございます。月夜に合わせてしようかと思いましたが、月夜は明日でございまして、なかなか漁師が多いので、全員が来ていただくことは難しいかと考えて、その日になりました。設置にあたって、開校にあたって、今決まった段階まで保護者に理解をしていただくということで、少しずつ不安を取り除いていこうかなと考えています。私の方からは、3点お話しをさせていただきます。校長として、義務教育学校への思いというのが1点目。2点目がどんな学校を作っていきたいかということ。そして、それにあたって、支援していただきたいということ。この3点でございます。

まず、1点目でございますが、みなさん十分にご存知かと思いますが、20年後の日本の姿を考えた時に、今から世の中は劇的に変化してまいります。それを予想して学習指導要領の改訂も行っているところなのですが、私自身、従来の学習では対応できないのではないかと考えます。付け焼き刃では通用しないのではないかと考えているところです。今から特別支援の子どもも増えるし、地域の格差も増えるし、問題行動もたくさん出てくるのが絶対予測されます。もっと危機感を持つべきなら、学校の先生、地域の方々も含めて、そのことを広く浸透させていかなければならないと考えております。今の学校では、単純な知識だけではなく、知識を活用する思考力とか判断力とか表現力を十分に養っていく必要があります。自分の行動について責任を持つ、そういう人間を育てていかなければいけないというふうに考えています。もちろん日本全国そうだと思うのですが、そのためには小中一貫教育から一歩進んだ新しい教育スタイル、新しい学校種である義務教育学校の設置は大きなチャンスだというふうに捉えています。この小中をつないだ形が学習の効果を最大限に発揮して、その効果を子どもたちが得ることができるものだというふうに考えています。そのためには絶対に成功させなければいけないのですが。市長が申されました「教育のブランド化」を僕は目指そうと思っています。大島は島民が減少しています。今、実質700と言われていますが、島に住んでいる人は600ぐらいです。住所を残しながら、こっちに住んでいる人が60~70人いらっしやいます。なので、子どもがどんどん減少しています。10年先はクラスが3~4人です。ひどくなると1人とかになる可能性があります。20年後は島民全部で400人を切るのではないかとというふうに言われています。島民もみんなそれを心配しているところです。ただ、1か月に3万円ぐらいあったらゆっくり暮らせるので、そっとしておいてほしいというお年寄りの方もたくさんいらっしやるのですが、やはり、若い方たちが島で生活をしていくためにはこのままではいけないということで、若い方々、お父さま、お母さまが考えてらっしやいます。考

えのギャップがあります。年配の方と若い方にはですね。なので、大島の地方創生、宗像もそうなのですが、地方創生は教育にあると考えています。新しい教育の形を発信して、市長が申されましたように、大島に行けば英語がしゃべれるようになるとか、学力がこんなに上がるとか、1年生から学校に入れば。そういう教育のブランド化を目指して、子ども達を島に来させたい。そのためには寮とか宿舎を作っていただかないといけないのですが。そういう思いが私にはありますというのが1点目です。2点目です。特色ある学校づくりをそのために進めていくわけですが、大島というのは島の行事がとてたたくさんあります。中津宮のこともあり、その特色を生かしながら、削るところは削りながら、地域に根差した体験活動と合わせて、子どもたちの学力の向上、これが一番のメインでございます。しかしながら、学力の向上を目指すところなのですが、将来、格差が広がって、強いものと弱いものが出てきたときに、弱いものを蹴落とすような、見捨てるような日本人を作ってはだめだというふうに思っていますので、人のために働くことができる子どもを私は作っていきたくと考えています。そのために、特色ある学校づくりを4点考えているところです。まず1点目が英語教育の充実です。ゴールの姿としては、英検3級を全員卒業までに取得。それから、大島に世界遺産を見に外国の方が来られますが、その外国の方を義務教育学校9年生の子ども達が案内することができる。そんな姿をゴールの姿と思っています。具体的には、小学校1年生から外国語活動をフルに取り入れ、5、6年生は外国語科を70時間フルに行います。小学校の英語の専科の先生を作りたいというふうに考えています。2点目です。6年生からすべての教科を教科担任制にします。今現在、5教科の先生方が小学校の方に行かれています。数学と国語と英語の3教科だけが行っておりません。その3教科も含めて、6年生まですべて教科担任制を考えています。そして定期テストも実施して、高校入試の対応も早期に行いたいというふうに考えています。3点目でございます。個に応じたきめ細かな指導をさらに充実させたい。人数が少ない中で、考えようによっては大きな学校では40人を1人が見ます。しかしながら、大島では1人の担任が4~10人の子どもを見るというクラスになっています。1人に対して10人分の力を注ぐことができるということで、もっともときめ細かな指導ができるのではないかと考えているところです。そのためには病院のカルテのような、個人の学力のつまづきとか、伸びとかを記録した個人カルテ、これを作成、活用したいと考えています。さらに、小中がつながりますので、小学校の手厚さと中学校の専門性を結びつけて、先生方の授業力を向上させたい。学力向上は授業力を向上させることが一番だと考えています。4点目です。島です。なかなか交流活動を行うことは時間的に難しい。船で出て、船で帰ってこなければなりませんので、丸1日の活動となります。なので、それを簡単にするために、先月スカイプを使った授業を行いました。日の里中学校と大島中学校で。途中で固まりましたけども、かなり有効なものだと考えております。人数が少ないところと多いところの交流を授業の中でできて、考えを交流できたらなと。そういう多様な交流の仕方をする授業を行っていきたくと考えています。こんな学校を作りたいということで

4点挙げさせていただきました。3点目でございます。それを実現するにあたって、今、教育長と福岡教育事務所の事務官のお力をお借りしながら、人事配置についてのご配慮をいただいているところです。しかしながら、他の学校も定員がありますので、なかなか上手くはいきません。今、最善のお力をお借りしているところなのですが、そういう人事的な問題、それから義務教育学校を行うにあたって小中の免許の問題もでございます。小中の免許を保持している先生方をたくさん配置していただきたいというふうな要望もお願いしているところですが、先日、福岡教育大学がそれに全く逆の方向の記事をポンと出して、ちょっと困惑しているところなのですが。英語教育をこれから充実させていくためにも、スタートが大事だというふうに考えていますので、ぜひ来年度の予算に学力向上支援教員、英語で付けていただけたら、必ず結果を出していきたいと考えているところと、今の大島学園の教室の広さと配置を考えますと、将来的に1クラス20人入ると考えたら、小学校の教室が非常に狭くございます。そうなったときの校舎、教室の問題、予算が発生して、大規模工事になりますので、そういう問題がでてきますので、来年度の4月までの予算でできるところまでしていただくということで管理課の課長の方にもそういうお言葉をいただいて安心しているところでございます。全面的な宗像市のバックアップをいただきながら、ぜひこの義務教育学校を成功させまして、宗像だけではなくて、全国に発信していきたいというふうに考えているところでございます。本日はどうもありがとうございました。

【谷井市長】 ありがとうございます。今、竹原校長の熱い思い、要望、これからの義務教育学校の発展をお聞きしました。何か皆様からいかがですか。何かありますか。

【白石委員】 いよいよですね。なんだかワクワクします。先生の熱意がひしひしと伝わってきました。

【谷井市長】 要望ですので、特別、教育委員会の方から何かあれば。私から切り出しますと、先程も言いましたように、校長先生がおっしゃったようにブランド化の話です。前も同じことを言ったのですが、この義務教育学校をまず本市、大島で始めるということで実績を上げると。それがモデルになって、他の計画も出していますけども、当時は小中一貫校と言っていたのですが、それぞれの義務教育学校化を図る礎になればと思います。いろんな反対が出てくると思うんですよ。大島は比較的そういう面ではやりやすかったのですが、他のところはそうはいかない。そのためには、義務教育学校になったらこういう利点があるという認識を持ってもらう意味でも、大島学園が試金石になるというふうに思っております。そういう意味から、3点話があったのですが、これについて教育長何かありますか。

【遠矢教育長】 竹原校長が4月からの開校にあたってということで、いろんな思いを披露していただきました。教育委員会としても、やはり義務教育学校を成功させることがいろんな次につながっていくという認識は同じです。そうした意味で、やはり注目されるでしょうから、小さい島の学校ではありますが、キラリと光るものがあつたらと。学力

についても、先程英語の話もありましたけど、義務教育学校になることによって、特色化を図ることによって、それが島の活性化にもつながっていけばいいし、ひいては、なかなか島の人口も減少傾向が続いていますので、そこら辺で注目されることによって、島への移住も含めて、子ども達が増えていって、大島義務教育学校が活性化していくことが一番大事な視点だろうと思います。いろいろ要望もいただいておりますので、これについても県とも協議しながら、できるだけいい形になるように努めていきたいと思っております。

【谷井市長】 それで市長として先程も言ったとおりなんですよ。この宗像市の小中一貫教育から義務教育学校という形に変化していくのですが、当然柱としては、子育て、教育というのは柱ですね。そのためには、学校教育というのは、非常に大事です。それで今、校長先生からお話があったことは必要だし、私も必要だと思います。ただ、実現するには教育委員会の分野が多いのですけれども、だから、ひとつキーなのはこのカリキュラム部会等々、いろんな部会の中でそういったことを受けて議論して、県の教育委員会への働きかけと言いますか、そういうものの成果というか、市の教育委員会としてそれは何かあるんですか。今からどうのこうの言っても間に合わないわけですね。間に合わないなら31,32年でいいんですけれども、そういうものを具体化するための礎というのは、県教委は簡単に「うん」と言わないわけですから、だから、市として教育委員会としても、そういう熱い考えというのを発足にあたって検討はやってきたんですかね。特にカリキュラム部会が主になると思いますが、どうなんですかね。ただ単に学園づくりのための表のこの設置検討委員会の事務的な問題だけだったんですかね。逆に私の方から聞くのはおかしいのですが。

【教育子ども部長】 これは、部会の表を市がつけてますけども、当然、カリキュラムにつきましては、今、校長先生や市長からお話があったような内容を積極的に盛り込んでいくカリキュラム。ただ、今年度中にその分を仕上げるのは当然難しいので、来年度にかけまして、今言ったような部分を入れていかななくてはならないと思っております。ただ、それ以外に、それが来年度1年かけてできあがるのを待っていたら遅いので、ある程度の骨格というか、細部まで煮詰まる前に骨格を整理して、今日は県の人事に絡む部分も出ていましたが、市としまして、今年度から予算措置が出るものとか、そういったものは市長部局に整理して投げかけていかななくてはならないというふうに思っております。

【谷井市長】 この点は、実は、反対している人が直接私の方に意見があったのですが、それは今、阿部さんからお話がありました、皆さんからもお話がありましたけど、反対じゃないんだと、もう一度そういった問題を時間をかけてやるべきだということでの反対だということですね。だから、時間がなかったというのは私たちの責任でもあるのですが。だから、そういったことにとると、だいたい学力向上とか、今、校長先生からお話がありましたように、島民の方が待ち望んでいる諸々の課題を先にやるべきではなかったのかという反省があるわけです。今からやります、考えますと。いわゆる義務教育学校ありきということだけにやってきた反省は我々としてはあるのではないかと率直に思ってい

ます。ですから、されど今言ったように、人事配置とか教員の配置とか簡単にできないのは分かっておりますので、もうあと2か月足らずの中で解決するとは思わないのですが、その辺の整理をぜひやっていただきたい。そして、県の方にはあげられるものはあげていくと。年次計画とかも。すぐできるのは、まず、ALTの配置を大島に、吉武とか河東のように1人完全に配置付けるというのは難しいかもしれませんが、比重を大島にかければいいんですね。とりあえずやれることとしては。これは教育委員会で行うことですから、私としては要望なのですが。英語教育の充実としては、大島に1人配置してもらうのが一番いいです。そういうようなことであれば、予算がそうなれば、必要であれば、これは市長部局として考えていきたい。そういう具体的なものがないから、そういう思いなんです。ですから、これは私だけではなくて教育委員会の問題としても、この辺は初めての義務教育学校の中でやる時にただ単に従来型しかないという、これを見た時に、特段何か特徴があるのですかね、逆に言えば。義務教育学校で新たにこの大島をやる前に。それがはっきりと私もよく見えないのですが。

【阿部主幹指導主事】 竹原校長が言われたように、まず、英語教育は充実させたいということですので、当然英語の時間が増えたり、他の学校に比べると1年生からずっとカリキュラムを作っていかれると。これは早急にできる。ただ、やっぱりそれを教えるための教員が来るか来ないかで、それが実現するかどうかは全く分かりませんので、カリキュラムができていても教員の配置がないじゃないかと言われれば、それはもう水の泡になってしまうということですので、そこらへんも、教員の配置とかお金がかかることですので、今人事的なことも教育長の方という話をされていると思うので。なかなか、カリキュラムができたからすぐにできるということも中々。この1年かけてきちっとした形の特色があるカリキュラムの大枠はきちっと作っていききたいというふうにして思っております。特に、世界遺産学習の一番地のところでもありますので、与えられたカリキュラムだけの世界遺産学習だけではなく、全体を取り囲むような大きな世界遺産学習、所謂「大島科」という新しい科として、立ち上げてほしいと思います。そういう方向性を来年度1年かけて、しっかりと地域の方と一緒に意見をもらいながら、作っていくようにはしております。

【谷井市長】 今、校長先生が言った話の先にもっともっと速く挙げて、義務教育学校が決まる前にもっともっと議論しておけばよかったという反省があります。まさに教育会議に市長が入ってきたということは、政策ですね。私自身のマニフェスト・政策、それがこの島を活性化することも一つ、この義務教育学校をやることによって、先程言ったので、繰り返しはしませんけれども、島が活気づくと、これは島根県の海士町の例もありますけれども、そういったこととつながる。子ども達の学力向上だけではないですが、そういうことを十分検討していただきたい。やれることはまず、国、県に対する要望は、これは義務教育だけでなく、私の政策としても同じことですので、これは県教委と一緒にお願いに行ってもいいと思うのです。例えばです。こういったことは、教育委員会とまた。

【教育子ども部長】 あと重複になるんですけれども、義務教育学校開校の時にいろいろ

な準備をしておけばよかったです。今、県の職員配置が中心の話になっていますが、先程竹原校長先生のお話の中で、市費負担の部分の話も出ていまして、一つが学力向上支援員、もう一つが、市長にご提案頂いたALTということです。今カリキュラムも来年作成を1年かけてしていくと言っているんですけども、それを待っていたら1年2年もずれていきますので、市長がおっしゃっているとおり、骨格を整理して、すぐまた来年度の実施計画なり始まりますので、それにはなんとか方向性を間に合わせて、その辺りを市長部局と協議をさせていただきたいと思います。ALTについては、いま専属校が2校ありますので、その見直しをするかしないかというのを、主幹教諭とかを含めて協議いただいて。やはり非常に特色ある学校を作るためには、その必要性については十分協議した上で、だいたい先の話じゃなくても、来年度入ったらすぐにそのような動きもしていかななくてはいけないと思っていますので市長がいらっしゃる間にご指示いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【谷 井 市 長】 だから、そういう骨格は私が審議しませんので、本来ならば骨格予算を作るときにもう少し片付けて、方向を出しておけば良かったと思うのですが、本予算でそれは十分入れて議論していただきたい。それを自身私自身が引き継ぐこととなりますので、熱い思いを宗像市大島の校長先生、先生方、それを初めて義務教育学校を作ると、何度も言いますが、モデルになればいろいろ反対があるであろう他の義務教育学校に繋げていけるといいますので、ぜひ成功させていただきたい。予算の問題は、我々の問題、市長の問題ですので、これは、きっちりとした整理をしていただければ、そういうことについては考えていきますという話でございます。

【釜 瀬 委 員】 私も竹原校長にエールを送っていいですか。竹原校長、今お話を聞いていて、竹原先生とは、私が日の里西小のころ、日の里中学にいらっしゃって、小中のつながりで兼務教員で来ていただいて、積極的に小中一貫教育を推進してこられた方です。私は大島はやはり生まれてから死ぬまでが、地域の一貫ではなく、一生教育を地域の人がしていると思うのです。学校だけではなく、ぜひこの義務教育学校は義務教育の世代だけでなく、やはり地域の人、親も、赤ちゃんも、幼稚園・保育園の子も全部を見通した教育活動を大島でやってほしい、そして大島に行けば、こういう立派な、今校長先生がおっしゃった、英語力でも、生きる力でも、そういう部分を培って、大島に行けばこういう子どもが育つ、こういう素晴らしいところがあると発信できるように、竹原校長先生だと行動力と意欲と積極性で、地域のおじさんの中にも入って行って、話ができる人なので、ぜひこの義務教育学校から発信して、宗像のこの大島の義務教育学校は、やはりすごいなど、こんな成果が得られるということを書いてほしいなど、成果が出ることを期待しています。頑張ってください。

【谷 井 市 長】 他になにかありませんか。一応こういうことという方向性は、出ているので、中身の問題になりますけれども。やはり、それが大事だと思います。私が大分話し過ぎましたけれども、そういう面では。

【石丸委員】 よろしいでしょうか。宗像市の総合計画に「元気を育むまちづくり」とありますように、私はやはり元気な学校が重要なのではないかと思います。元気な学校は子どもも元気で、先生方も元気で、ひいては保護者も元気で、地域住民も元気だという、そういったのを実現できる単位は、島という単位が非常に良いのではないかと思います。日本はやはり島国ですから、その島から見えてくる日本があると思うんです。そういう意味では小さな島の大きな世界を目指していただいて、元気な島、元気な学校を作っていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

【谷井市長】 はい、まさに、それは石丸先生と同じことを言ったんですけれども、私は、元気な市民と元気なまちづくり、市民とは子どももみんな入っているわけです。それで、やはり子育て教育これを重点・柱に置いていますので、今回そういったことで、まさに教育会議の中でこういった形でできて、私は非常にありがたいと思っています。この点はこれでいいですか。この項につきましては、そういうことで、今後の教育委員会として整理したものを一度、教育委員会あるいは私の方に出してもらいたいと思います。

### （３）宗像市立学校における休業日の短縮について

【佐々木指導主事】 失礼いたします。指導主事の佐々木でございます。資料は3になります。スライド資料もご用意しておりますので、こちらの方もご覧ください。来年度の宗像市立学校における休業日の短縮等について説明いたします。こちらは、今年度と平成30年・31年度の1学期から3学期までの日程を表にしたものでございます。本年度まで1学期は4月1日から8月31日まででしたが、来年・再来年度は1学期を7月31日までと、1か月早くいたしました。夏季休業日は7月21日～8月31日まででしたが、来年度・再来年度は8月30日までになります。2学期は9月1日からでしたが、先程1か月繰り上げたと申し上げたとおり、2学期の開始を8月1日からとし、冬季休業日は12月25日から1月5日までというふうに変更になっております。3学期は開始が1月8日からでしたけれども、冬休みは少し早く終わりますので1月6日からというふうになっております。このことによりまして、平成30年・31年度で出校しなければならないという日数が2日増えております。具体的には、このように少し変わった日程のみ印をつけさせていただきましたが、改正によって出校となる日は、具体的には来年度平成30年度が8月31日と1月の7日、土日の関係がございますので、この2日間となります。平成31年度は1月6日と7日になります。続きまして給食の回数でございますが、来年度は契約の関係上、本年度どおりになります。小学校が188回、中学校が基本180回ということ。平成31年度は今よりも5回ずつ増えまして、小学校で193回、中学校で185回となります。それから、先程から少し話題に上がっていますが外国語活動でございます。移行期間の平成30年・31年度は、小学校5・6年生は50時間、小学校3・4年生につきましては、20時間というふうになります。そして条件としまして、総合的な学習の時間は使いません。それから、モジュール的な短時間を組み合わせたような学習の

方法はとらない、ということに決定いたしました。このようになっております。ただし、移行期間をなだらかに活用するために、平成31年度は小学校4年生のみ外国語の授業数を35時間に増やすということで、少し具体的にこちらの表の方が見やすいと思いますが、現小学校2年生が来年小学校3年生に上がります。この時に移行期間の1年目となりますが20時間外国語活動の授業を受けると、そして4年生になった時は35時間、そして今小学校2年生が5年生になる時が丁度全面実施の時に当たりますので、5年生になったら70時間の外国語の授業を受けるというなかたちになります。この前の総合教育会議でも随分ご意見をいただきましたけれども、このようなかたちで各学校には報告をさせていただいております。宗像市立学校における休業日の短縮についての説明を終わります。

【谷井市長】 ありがとうございます。この点は、前回も議論してきたんですけども、報告というような形なるとは思いますけれども、何か特にご意見ございますか。ないようならば、先程も言いましたが、報告ということでこれはきちんと教育委員会の中で、報告して頂きたいとします。

### 3 閉会

【谷井市長】 すべての項目について協議が終了しましたので、平成29年度第3回宗像市総合教育会議を閉会します。次回は、7月24日を予定しております。詳細につきましては別途ご案内申し上げます。